

ヤマト福祉財団 NEWS

ヤマトグループ賛助会員向けニュース(季刊)

発行部数12万部・非売品

YAMATO WELFARE FOUNDATION

No.35

7月20日発行 2012 Summer

東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金

みなさまの多大なるご支援
ありがとうございました

6月30日を持って
募金活動を終了しました



東日本大震災
生活・産業基盤
復興再生
募金
ヤマト福祉財団

第2次助成「農業生産復旧緊急対策事業」でハウスの修繕費用、園芸用資機材の助成を受けた、宮城県名取市花卉生産組合の三浦洋悦さん。
「もう終わりだと思ったけれど、みなさんの励ましや助成もあって生き返ったんです」。

東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金
助成先を訪ねて

“民間だからこそ
できる助成”で
前に進む力を p05

障がい者給料増額支援

平成24年度

レベルアップ助成金の

贈呈式を開催しました p14

この街で一緒に生きていく 障がい者のクロネコメール便配達

変わらないといけない。

その想いで始めた。 p22



みなさまの多大なるご支援

ありがとうございました。

6月30日を持って募金活動を終了しました。

謝辞



公益財団法人ヤマト福祉財団
理事長 有富 慶二

ページに掲載しておりますが、それぞれの道に精通している最高権威が選考委員として就任してくださいました。本当にありがとうございました。感謝申し上げます。

座を出発しています。以上に加えて、冒頭の「復興再生募金」を行いました。御当局始め関係各位のご支援に感謝申し上げます。ありがとうございました。

公益財団法人ヤマト福祉財団は、ヤマト運輸の寄付金（宅急便1個につき10円）をベースに「東日本大震災生活・産業基盤復興再生募金」へのご協力をお願いしてまいりましたが、6月30日をもって無事に終了することが出来ました。宅急便のご利用で、ご協力を頂いた方々、当財団の口座へ直接お振込みを頂いた方々、本当にありがとうございました。募金の総額は142億7426万4524円（6月29日現在）に上り、第一次から

第五次までの五回で31件の事業へ助成をさせて頂きました。ご支援に対し衷心よりお礼申し上げます。助成先の事業内容は、五回の選考委員会にて公開してまいりましたが、県別と区分別と具体的な事業名と金額を別表に添付しておりますので、ご覧頂きたいと思っております。選考において最も重要視した考え方は、単に被災地へお金だけを届けるのではなく、スピーディーで目に見える支援をすることで地元

の方のやる気に直結し、復興再生が確実に進んで行き、波及効果が高まる支援になることを目指しました。ヤマト運輸にとっては、内部留保にまわすべき142億円も貴重なお金を、そして直接寄付を頂戴した皆様方の志を無駄にすることなく、被災地の人達の復興再生の役に立つ生きた支援として効果的に活用出来たものと自負しています。これは、ひとえに選考委員の先生方のご尽力の賜物です。先生方のお名前と御略歴はホーム

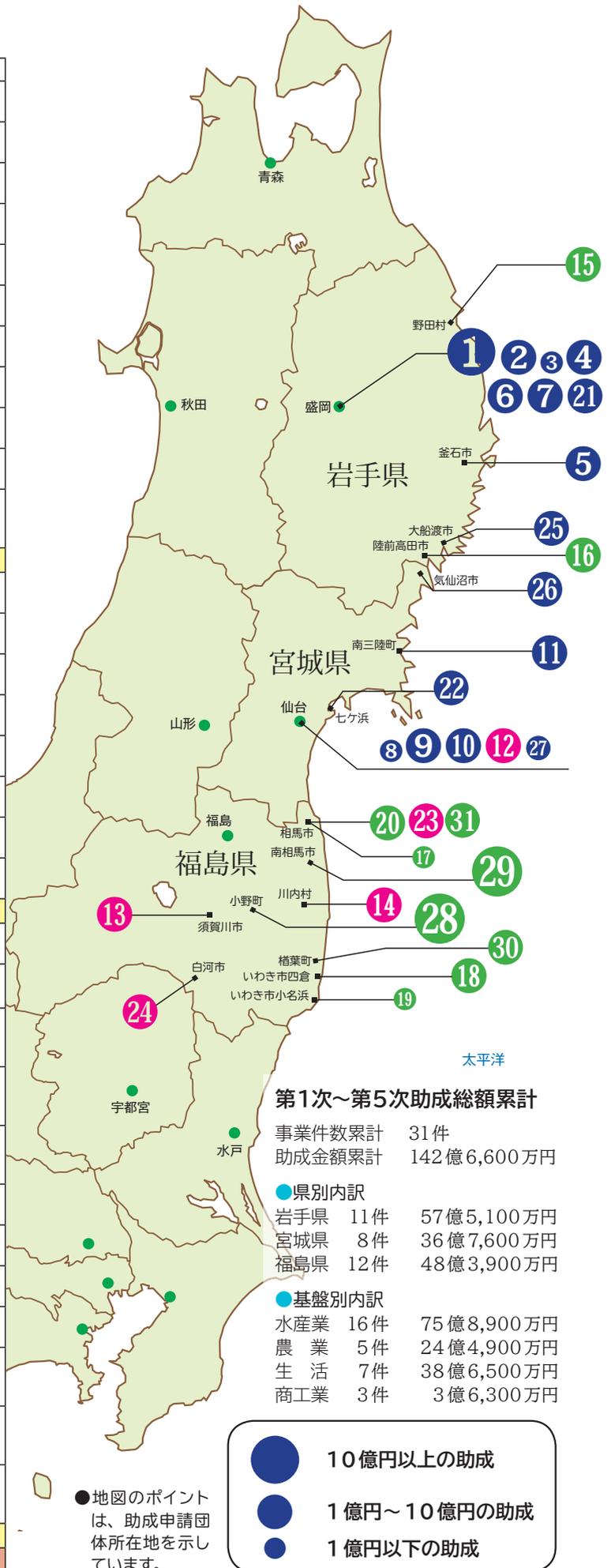
1919年に創業し、92年目を迎えたヤマトグループは、昨年の震災を目の当たりにした時、世紀近くも商売させてもらった世の中へ恩返しをする時だと、社員一同が考えました。最重要課題は宅急便本業の正常化です。現地は本当にがんばってくれました。私も被災地へ入りましたが、被害の大きな営業所でも、電灯も無い中で仕事を始めていました。頭が下がる思いでした。お客様も喜んでくれました。全国の人達から支援物資がダイレクトに届くことになったからです。地元の行政のお手伝いもしました。避難所や数世帯が集まっている所へ支援物資を届けました。全国の社員も応援に入りました。私が遠野の営業所を訪ねた時には鹿児島島のドライバーが働いていました。社員のボランティアもたくさん現地に入りました。今でも週末には、会社のバスが銀

最後にありますが、助成先の進捗状況の一部をご報告します。宮城県南三陸の仮設魚市場は昨年の10月21日に完成し、24日から「競り」を開始しました。秋鮭に間に合ったのです。早い支援の面目躍如、町の担当者は「これで人が町を去ることがなくなる」といって喜んでくれました。4月11日に私は、岩手県野田村保育会の地鎮祭へ出席しました。高台移設に国のお金が付かないとのことなので、建築費を助成することになりました。村長さんは「保育園の建設工事が復興の槌音となって村内を響き渡り、村民のやる気を喚起する」と挨拶されました。本当に良かったと感じました。進捗状況につきましては、これからも適宜お知らせします。あらためまして、関係各位の皆様方にお礼を申し上げます。誠に、ありがとうございました。

第1次～第5次助成先

(単位：百万円)

県	事業名	水産	農業	生活・商工	県別合計
岩手県	① 水産加工事業者生産回復支援事業	1,600			
	② 魚価安定緊急対策事業	403			
	③ 水産業共同利用施設復旧支援事業	97			
	④ 製氷・貯氷施設回復支援事業	248			
	⑤ 釜石市 魚市場経営基盤再生事業	155			
	⑥ 製氷・貯氷施設回復支援事業	758			
	⑦ 水産業共同利用施設復旧支援事業	880			
	⑮ 野田村保育所再建事業			280	
	⑯ 陸前高田市竹駒保育園の新設・再建事業			234	
	⑳ 水産業共同利用施設復旧支援事業	966			
㉕ 「いわて三陸」夢あふれる漁業モデル創生プロジェクト	130				
県別・基盤別合計		5,237	0	514	5,751
宮城県	⑧ 海底清掃資材購入支援事業	100			
	⑨ 高鮮度水産物供給施設整備事業	600			
	⑩ 養殖用資機材等緊急整備事業	500			
	⑪ 南三陸町 水産業基盤施設緊急復興事業	347			
	⑫ 農業生産復旧緊急対策事業		1,324		
	㉒ セブ浜水産振興センター建設事業	570			
	⑳ 仮設水産加工工場施設整備整備事業	177			
	㉗ 海底清掃資材購入支援事業	58			
県別・基盤別合計		2,352	1,324	0	3,676
福島県	⑬ JAすかがわ岩瀬農業生産再生事業		255		
	⑭ 川内村高原農産物栽培工場建設事業		300		
	⑰ 相馬広域こころのケアセンター：なごみの新設事業			30	
	⑱ よつくら港地域振興施設「交流館」復興事業			180	
	⑲ 「アクアマリンふくしま」熱源整備改修事業			80	
	㉒ 相馬港海上コンテナ物流基盤整備事業			103	
	㉓ 農地復旧復興（純国産大豆）プロジェクト		300		
	㉔ 地域農業再生基幹施設緊急整備事業		270		
	㉘ 公立小野町地方総合病院整備事業			2,000	
	㉙ 鹿島厚生病院併設介護老人保健施設厚寿苑の新設事業			1,000	
	⑳ 仮設校舎敷地造成工事、仮設校舎設置事業			191	
㉑ 福島県立自然公園松川浦周辺の海岸防災林再生事業			130		
県別・基盤別合計		0	1,125	3,714	4,839
総計		7,589	2,449	4,228	14,266



<震災後のヤマトグループ・ヤマト福祉財団の主な動き>

日付	ヤマトグループ	公益財団法人ヤマト福祉財団
3/11 (金)	震災発生	
3/23 (水)	「救援物資輸送協力隊」編成 (車両200台/人員500名)	
3/25 (金)	東北全エリアで「宅急便」集配を再開	
4/1 (金)		内閣府より認定を受け、公益財団法人「ヤマト福祉財団」となる
4/7 (木)	「宅急便1個につき10円の寄付」(年間130億円規模)を発表	
4/11 (月)	「宅急便ひとつに、希望をひとついれて」新聞広告	内閣府より障がい者支援事業に加え、被災地の復興支援事業を追加する変更認定を受ける
5/16 (月)	「社員ボランティア休暇制度」スタート (約940名/10月末現在)	
6/24 (金)		 「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」が財務省より「指定寄附金」の指定を受ける同日、第三者による「復興支援選考委員会」発足 ※1
7/1 (金)		「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」募金・助成先募集開始
8/24 (水)		第一回「復興支援選考委員会」開催 「見える支援、速い支援、効果の高い支援」を基本方針に、第一次助成先を決定
9/8 (木)		第一次助成先発表 ※2 (41億円規模)
10/11 (火)		第二回「復興支援選考委員会」開催
10/12 (水)	「宅急便ひとつに、希望をひとついれて」報告新聞広告	
10/24 (月)		南三陸志津川の「仮設魚市場」が10/21に完成し、初競り(第一次助成 3.6億円の一部)
10/27 (火)		第二次助成先発表 ※3 (34億円規模)
10/31 (月)		岩手県水産加工事業者 生産回復事業の助成先を決定(第一次助成の内 16億円規模)
11/7 (月)	10月までの宅急便個数、寄付総額発表 累計7億9323万8047個/79億3238万470円	10月末までの募金総額(ヤマトグループからの寄付を含む) 79億4014万3082万円 第二次までの助成総額 74億7100万円
1/16(月)	12月までの宅急便個数、寄付総額発表 累計11億787万6576個/110億7876万5760円	第三回「復興支援選考委員会」開催12月12日、21日助成先発表 ※4 (22億円規模) 第三次までの助成総額 84億9200万円(3次補正前 96億7300万円 差額11億8100万円) 12月末までの募金総額(ヤマトグループからの寄付を含む) 110億9321万429円
2/7(火)	1月までの宅急便個数、寄付総額発表 累計12億680万3208個/120億6803万2080円	12/16アクアマリン熱源設備運用開始式 1/17よつくら港交流館地鎮祭 1/28相馬港機能復旧式 1/30JAすかがわ岩瀬農業倉庫起工式 1月末までの募金総額(ヤマトグループからの寄付を含む) 120億8355万9589円
3/13(火)	2月までの宅急便個数、寄付総額発表 累計13億876万9264個/130億8769万2640円	2/10大船渡市漁業協同組合 製氷・貯氷施設保管施設地鎮祭 2/10宮城県 村井嘉浩知事よりヤマト福祉財団、ヤマト運輸(株)に感謝状贈呈 2/17岩手県 上野善晴副知事よりヤマト福祉財団、ヤマトホールディングス(株)に感謝状贈呈 第四回「復興支援選考委員会」開催2月22日、29日助成先発表 ※5 (21億円規模)
4/26(水)	3月までの宅急便個数、寄付総額発表 累計14億2360万8136個/142億3608万1360円	3月末までの募金総額(ヤマトグループからの寄付を含む) 142億7117万7426円、第五回「復興支援選考委員会」開催4月17日、26日助成先発表 ※6 (36億円規模) 第五次までの助成総額 142億6600万円 4/24福島県 佐藤雄平知事よりヤマト福祉財団に感謝状贈呈 4/23釜石市漁業協同組合連合会 水供給、衛生管理施設竣工式

※1「復興支援選考委員会」：委員長/内田和成(早大教授) 委員/家田仁(東大教授)、小泉武夫(東農大教授)、野田由美子(PWCアジア地区代表)、林春男(京大教授)
 ※2「第一次助成先」：宮城県「高鮮度水産物供給施設整備事業」、岩手県「水産加工事業者水産回復支援事業」等、計9件/総額 40億8300万円⇒40億6500万円(詳細はリリースをご参照ください)
 ※3「第二次助成先」：岩手県「野田村保育園再建事業」、福島県相馬市「相馬港海上コンテナ物流基盤整備事業」等、計6件/総額 33億8800万円⇒22億700万円(◇)
 ※4「第三次助成先」：福島県川内村、「高原農産物栽培工場建設事業」、岩手県「陸前高田市竹駒保育園の新設・再建事業」等、計5件/総額 22億200万円(◇)
 ※5「第四次助成先」：岩手県「水産業共同利用施設復旧支援事業」「七ヶ浜町水産振興センター建設事業」等、計4件/総額 21億600万円(◇)
 ※6「第五次助成先」：福島県「公立小野町地方総合病院整備事業」等、計7件/総額 36億8600万円(◇)
 第一次～第五次助成累計総額 31件142億6600万円

助成先を訪ねて



「民間だからこそできる助成」で
前に進む力を

「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」は、4月17日に第5次助成先が決定しました。
「民間だからこそできる助成」を活かして、現在各地で進められている復興事業の最新状況をお伝えします。



右から阿部聡代表取締役、
星名大地常務、佐藤雄則専務

津波により塩害に侵され
ガレキに埋もれた田畑を再生

宮城県を襲った大津波は、前号でお伝えしたように沿岸部に広がるいちごビニールハウスから内陸部の農地までをあっという間に飲み込んでしまいました。後に残さ

【宮城県農業生産復旧緊急対策事業】

(第2次助成) 宮城県

日本の食料基地・宮城県復活へ
各農家の営農再開を後押し



れたのは泥やガレキ、塩害に侵され見る影も失った田畑でした。それでも負けずに営農再開を目指す農家を支援するため宮城県は助成を申請。復旧対象は農地約1万3000ha 水稲約7万1020ha、園芸924haなどです。この助成を受け、いま多くの農家がそれぞれが抱える問題と正面から向き合い復興に挑んでいます。

株式会社イグナルファーム
自分たちの手で地元農業が
イグナル(良くなる)ように

津波が奪ったものは、家や農地、農業機械だけではありません。最も大切な家族を奪われた方もいます。イグナルファームの阿部聡代表取締役もその一人でした。生きる希望を失っていた阿部さんに声をかけたのは、友人のいちごハウ

ス農家・佐藤雄則専務でした。東松島市の農業の未来を共に語り合ってきた友人を手伝ううちに「家族を奪った津波に仕事まで奪われてたまるかと奮起します」。

その後二人は、国の助成や本助成をもとにいしのみき農業協同組合が園芸農業の早期復旧・復興を推進するモデル事業「園芸用貸付ハウスの募集」に手を挙げます。貸付条件は、農業法人化を目指す農家で、土地を自分たちで用意できること。そこで計4人の仲間と株式会社イグナルファームを昨年末に設立しました。イグナルとは地元の方言で「良くなる」の意味です。

「期間内での用地準備は凄く難しくして。そんな時、若い人が農業を復活させるのなら協力したい」と市の議員さんが自分の土地を格安で提供してくれたのです」と阿部さん。こうした周囲の協力も得て、5月25日に3棟のハウスの引渡しを実現しました。

「ここには専門分野の農業に長けた若いメンバーが集まっています」



約3,300㎡のハウス3棟
ここが4人の新しい夢の出発点

「私ともう一人がトマトとキュウリ。専務がいちご。また、トマトとメロンが専門でかつネギ栽培の経験者もいます。なにを栽培しようかと夢が広がる中、4人が選んだのはミディアムトマトでした」。

「大玉トマトに比べ中玉トマトなら選別作業の労力を軽減できます。その分、肥料を自分たちで調合するなど特別栽培で手間暇かけ、美味しさにこだわっています」。本助成により農業機械なども購入できました。また、600坪くらいの育苗施設を借り、12品種のトマトの苗を試作して品種も厳選しています。

トマトの収穫は7月中旬予定で、約100トンの収穫量を見込んでいます。収穫後は、キュウリを育てていく計画です。

農事組合法人 仙台イーストカントリー

地域農業を守る旗振り役 立ち止まっていられない

離農が進む農業再生を模索し、全国でもいち早く農業法人化を推進してきた宮城県。その中でも仙台イーストカントリーは、8戸の農家で構成された市内最大規模となる農事組合法人です。震災前は90軒の農家の※圃場を引き受け経営面積は64haでした。しかし、津波で水田の約2/3が被害を受け、農業機械の大半も流されてしまいました。

「ガレキの山となった農地を前にした時は、言葉を失いました」と



仙台イーストカントリーのメンバー



本助成でトラクターやコンバインなど、津波で失った農業機械を購入しました

佐々木均代表理事。それでも「大切な田んぼをこのまま放置などできない。私たち法人には、もとのような農地に戻すための旗振り役としての義務があると思えました。地域を元に戻すためにも、私たち法人が踏み出さなければなりません」と仲間と決意します。

しかし、津波で損失した農業機械約5000万円は、法人化して3期目でまだ完済できていません。再購入すると二重債務となるため途方に暮れていた仙台イーストカ

楢葉町

【楢葉町仮設校舎敷地造成工事、仮設校舎設置事業】

(第5次助成) 楢葉町役場



明星小学敷地内をお借りして仮設校舎を建設

自分たちの学校で学びたい そんな願いを仮設校舎で

原発事故で楢葉町の大半が20キロ圏内の避難区域に入ったため、臨時休業措置となった二つの小学校と中学校の児童、生徒約680名は県内外の学校で学ぶことになりました。しかし、突然変わった教育環境、友だちとの別れ、震災のショックなどから、新しい学校や生活になじめず苦労している子どもも多く、学校再開を望む声が強くなっていきます。

「一刻も早く子どもたちみんなと一緒に学べる教育環境を取り戻したい」。楢葉町は、いわき明星大学の敷地内の一部を借用し、仮設校舎の建設を計画しました。建設費は国より2/3が補助されますが、残り1/3と造成工事費用は町の負担です。そこで本助成に申請し、仮設校舎建設の一步を踏み

出しました。

「子どもたちの就学を受け入れていただいているいわき市の学校自体が、被災問題を抱えて大変なのです。楢葉町が自分たちの学校を再開することで、多くの問題を同時に解決できると思います」と話すのは福島県楢葉町教育委員会事務局教育総務課 鈴木克典課長。仮設校舎の完成予定は11月ですが、一刻も早く戻りたいとの要望も踏まえ、4月には希望する子どもたちをいわき市に集めました。

「現在107名の子どもが集まり、仮設校舎ができるまでは、民間の施設をお借りして学んでいます。今後も60名以上の子どもたちが戻って来ることを希望しています」。子どもたちが安心して故郷に帰れる、みんなが学べる環境を取り戻すために、楢葉町の教育関係者は一丸となって計画を推進していきます。



仮設校舎ができるまで民間の施設を借りての学校生活です

※圃場(ほじょう)：作物を栽培する田畑



名取市花卉生産組合 菅井俊悦組合長とカーネーションを一緒に生産するご家族

「津波に負けないカーネーション」で復興を

名取市は全国でも有名なカーネーション産地です。名取市花卉生産組合は、6次産業化も目指し、工場や地域食料提供施設も計画しています」と地域農業の復興に向きに挑んでいます。

「これからは徐々に規模は拡大していくことでしょうし、ぜひ若い人にこの法人に入ってもらいたいです。今後は経営的な余裕を持つため、6次産業化も目指し、工場や地域食料提供施設も計画しています」と地域農業の復興に向きに挑んでいます。



昨年5月、菅井さんのハウスで泥の中から咲きはじめた、津波に負けないカーネーション(写真:菅井さん提供)

本格的に苗を植えるはじめたのは今年の4月の下旬から。「この仕事を40年以上やっていますが、今回の苗を植えたときが、最高に出ていたと思います」と話します。

菅井組合長は「温室の中はゴミやヘドロでぐちゃぐちゃでした。それをポランテアのみなさんのご協力で全部片付けることができました。ポランテアの方たちがいなかったら、せっかく残ったハウスをあきらめて解体する農家も出ていたと思います」と話します。

産組合の小塚原地区では、約7000坪のハウスがすべて被災し、そのうち約2500坪が流失、破戒等の壊滅的な被害を受けましたところが、泥に埋もれてしまったたくさんカーネーションの株から花が咲きはじめたのです。この津波に負けないカーネーションは、多くの被災者を勇気づけました。そこで塩害に強い「名取のカーネーション」を復活させようと、宮城県は本助成で園芸ハウス整備や生産資材の支援を開始しました。

「最初はやるかどうか、私も迷いました。だってすごいんだもの、ハウスの中にはスポーツカーが飛び込んでしまっていてメチャクチャでしたから」。

ポランテアの方に協力いただき、5棟のハウスのガレキを運び出し、ハウス内のヘドロにバチルス菌の入った堆肥を入れ、半信半疑でカーネーションの苗を植えました。後は月一回の土壌検査の結果を見て菌を加えていきました。

「なんとこれで花が咲いたんですよ」と三浦さん。去年11月から始まったハウス3棟分の出荷量は約10万本。今後5棟全部が再開できれば約17万本になる予定です。

「最初はやるかどうか、私も迷いました。だってすごいんだもの、ハウスの中にはスポーツカーが飛び込んでしまっていてメチャクチャでしたから」。

また名取のカーネーション復活には、北海道酪農学園大学の長谷川豊教授も駆けつけました。教授は、バチルス菌でヘドロを普通の土に変える研究をしています。これでいち早く再開できたのがカーネーション農家の三浦さんです。



「凄い状態だったけれど、再開して良かった」と話す三浦洋悦さん

ただ魚を獲るだけではなく自分たちで製品化し販売する

岩手県大船渡市にある漁師町・越喜来地区では、津波により572隻あった漁船のうち500隻が流されてしまいました。大切な船を失った多くの漁師は、ガレキ処理などで生活をつなぐ毎日を送っています。

漁師の熊谷善之さんたちは「もし助成を得て漁船を購入できて、後継者不足で衰退している越喜来地区が本場に再生できるのだろうか」と悩んでいました。そんな時、仲間の一人で加工販売を行う八木健一郎さんが、自分の故郷・静岡県の由比港漁業協同組合と連絡を取ります。

瀧澤英喜組合長理事は「若い人たちが漁業に就きたいと思える、そんな魅力的な夢のある漁業に変えていきたい」と話しています。

【いわて三陸】夢あふれる漁業モデル創生プロジェクト
 (第5次助成) **三陸漁業生産組合**
三陸町



10年、20年後につながる若い人たちが夢を抱ける漁業へ

豊富な魚介に恵まれた漁場・いわて三陸海岸で獲れたタコ、カニ、ノドグロ、つぶ貝などを、今後は加工や販売を行う他チームと連携して、より付加価値を高めていく計画です。例えばCAS(セル・アライブ・システム)機能が付いた急速凍結庫を使えるチームが新鮮な製品の長期間保持を担当。他にもカキの殻むきを観光客が体験できる番屋、浜の郷土料理・漁師飯を提供する食堂や直売所と連携して、いままでになかった魅力をアピールしていきます。さらに、10年20年先の漁業を考え、ただ魚を獲るだけでなく自然を保護しながら進む道も模索中です。

「自分たちが夢を抱ける漁業へ」と話しています。

【農地復旧復興(純国産大豆)プロジェクト】

(第4次助成) 福島県相馬市

農業機械の助成を受け
塩害や風評被害に負けない
大豆を耕作



大豆による相馬市の農業再生を目指し
三つの農業法人が立ち上がりました

地域を代表する農業法人へ
必要な農業機械を市が貸与

相馬市を襲った津波は港をことごとく破壊(港の復興については第2次助成『相馬港海上コンテナ物流基盤整備事業』として助成)。さらにこの津波は内陸部にも及び、田畑は塩害に侵され、農業機械の大半が流されてしまいました。さらに追い討ちをかけるように原発事故の風評被害が農家を襲います。津波ですべてを失い、新しい機械を購入するのも厳しい状態なのに、と落胆したお年寄りの農家の中には、農業再開を断念する者も出てきています。

全国の農家が抱える高齢化、後継者不足は相馬市でも深刻な問題です。これまでは集落営農で対応してきましたが、今回の震災ダメ



ずらりと並んだトラクターをはじめ
各種農業機械が農業法人に貸与されます

ージは甚大であり、いまの体制では農業再生は困難と判断。飯豊、岩子、南飯淵の3地区の有志が立ち上がり農業法人を起こしました。

そこで相馬市は、農業法人を応援し、農業再生を進めるため、農業機械購入の助成を申請。農業法人にトラクターなどを貸与し、いま

6月1日に開催された農業機械交付式では、颯爽と並んだ18台のトラクターを前に立谷秀清市長がこうやって見ると壮観ですね。この機械を使い相馬市の農業をみんなで再生していきましょう」と挨拶し、トラクターのゴールドキーを合同会社飯豊ファームの島光春代表に受け渡しました。これからは農業機械をフル稼働して、除塩や大豆の耕作がはじまります。

「すでに放射能は、自然放射能の数値まで下がっていますが、万全を期して2年間は収穫した大豆をバイオ燃料の原料にするつもりです」と島さん。大豆を植えた後の土地には特別な菌が発生し、土は豊かに生まれ変わるといいます。

「将来は相馬伝統の醸造技術を活かして豆腐や豆乳、味噌、醤油などを製造し、販売できるようにしていきたい。そして若い世代が相馬市の農業を継承できる体制を整えたいですね」と飯豊ファームを立ち上げたみなさんは計画しています。農業法人化により、今後は次代を担う若い人々を社員として雇用することもできます。

今後相馬市の農業は、大豆から広がる第6次産業化を目指して、新たな再生の道を歩みます。

交付内容

- 合同会社飯豊ファーム：トラクター10台、コンバイン2台、ブームスプレーヤー3台、その他アタッチメント19種
- 合同会社岩子ファーム：トラクター7台、コンバイン2台、ブームスプレーヤー2台、その他アタッチメント16種、大豆選別機3種
- 合同会社アグリフード飯淵：トラクター1台、コンバイン1台、その他アタッチメント8種

まで稲や野菜を生産していた田畑を塩害に強く、稲などに比べて設備や人手が少なく済む大豆畑に変えていくとしています。

若い世代に継承できる大豆加工品の製造・販売も

大豆加工品の製造・販売も

第2次助成先

釜石市漁業協同組合連合会
魚市場経営基盤再生事業

震災で損失した釜石漁港の水揚げ機能を回復するために、2012年4月23日、新浜町地区第2魚市場にて水供給装置(移動式砕氷車両)、衛生管理施設(殺菌冷海水供給装置)の竣工式が行われました。



毎時48トンの砕氷処理能力を持つ移動式砕氷車両



常時1℃の殺菌海水を供給できる殺菌冷海水供給装置

第2次助成先

社会福祉法人野田村保育会
野田村保育所再建事業

津波から園児全員が無事脱出し話題となった野田村保育所ですが、施設は完全に破壊され、新規建設のため本助成を活用しました。2012年4月11日、新保育所建設の地鎮祭が行われ、より安全な高台で11月の開所を目指します。



新保育所は以前より約1km内陸に入った17m以上の高台へ

活かして豆腐や豆乳、味噌、醤油などを製造し、販売できるようにしていきたい。そして若い世代が相馬市の農業を継承できる体制を整えたいですね」と飯豊ファームを立ち上げたみなさんは計画しています。農業法人化により、今後は次代を担う若い人々を社員として雇用することもできます。

今後相馬市の農業は、大豆から広がる第6次産業化を目指して、新たな再生の道を歩みます。



待望の機械が手に入り、いよいよこれからと話す飯豊ファームの発起人のみなさん



魚市場の近くに建設された仮設水産加工団地

水産加工団地で被災した加工業者が復業できるように

気仙沼市は、生鮮かつおの水揚が全国一。他にもまぐろ・かじき・さんま・サメ類などの水揚も豊富で、水産加工業は活気に満ちていました。そんな気仙沼市を津波が襲い、平地が少なく低い場所に建てられていた多くの加工場、冷蔵庫施設などが軒並み被害を受け、保管してあった加工品や原料もすべて流されてしまいました。被災

【仮設水産加工場施設設備整備事業】
(第5次助成) 気仙沼水産加工業協同組合
気仙沼水産加工業の復興の鍵
仮設水産加工団地の
設備・内装を本助成で



仮設水産加工団地に入る組合員・関係者のみなさん
 前列右から2番目が清水徹二代表理事組合長

した大部分の土地や施設に建築制限がかかり、再建への金銭的な目処も立たず、多くの加工業者が途方に暮れてしまいました。気仙沼水産加工業協同組合は、一刻も早く共同で加工作業を行う仮設の水産加工団地の建設することになりました。しかし国や団体からの支援は建物のみ。設備導入や内装工事などを行うため、本助成に申請をしました。

「内装工事費や設備費などを全部支援いただき、組合員にどれだけの力になったか量り知れませんが」と気仙沼水産加工業協同組合の清水徹二代表理事組合長は話します。

**気仙沼の加工技術を結集し
 できることから「1つずつ実現」**

44社が加入する気仙沼水産加工業協同組合。今回、仮設加工団地に



内装工事や設備導入を本助成で

入るのは、組合と加入組合員のうち9社が入り、持てる技術を出し合い、開始していきます。

「ある程度のお金を用意できましたので、組合がみなさんに原料を供給し、2次加工、3次加工を行ってもらうつもりです。これでも雇用を確保したいと考えています。しかし、仮設加工団地が稼働しはじめても簡単に以前の状況には戻りません。

「いまは気仙沼魚市場への水揚量も減少しています。また震災で水産加工がストップしていたため取引先のお客様は別ルートに変更するなど、厳しい状況にあります。それでも本助成を活かして、破壊された廃水浄化装置を加工団地に導入するなど、かつおはもちろん、牡蠣やホタテ、ホヤなどの加工も行えるようにしていきます。」

加工団地には、かつおをすぐ食べられるように調理加工ができる方、軽節のなまり節の加工ができる方、サメを市場から仕入れて加工処理して出荷できる方など、いろいろな加工技術者が集まっています。全員の技と力を合わせ、気仙沼市の加工業復興は進められています。

松川浦

【福島県立自然公園松川浦周辺の海岸防災林再生事業】
(第5次助成) 緑地創造研究会

**海岸防災林再生を
 地元の産業復興とともに推進**



被災から1年経った今も変わらない大洲海岸

相馬市の産業復興にも貢献できるように、緑地創造研究会は本助成へ申請を行いました。

**2年後に最初の苗木を植樹
 5年後には合計10万本へ**

松川浦周辺の海岸防災林は、干潟状の立地にあつたため、根が浅く容易に流出したと考えられます。これを教訓に盛土による築堤と併せて海岸防災林の再生が計画されました。

造園分野の専門家集団・緑地創造研究会の山本康雄代表幹事は「生物多様性保全の観点や地元の気候など地域性を考慮した、良質な地域性苗木」を用いて海岸防災林を再生していくことが大切です」と話します。

苗木は基本的に地元で育てていきますが、東北地方は常緑広葉樹の種子の発芽率があまり良くないため、千葉県の生産者の協力も仰ぐことにしています。こうした苗木育成の技術などを学び、相馬市の生産者たちが今後の海岸防災林再生事業の核となっていくことで、農業施設の有効活用や継続的な苗木生産という新しい地元産業の創出につながり、雇用も促進できると期待されています。

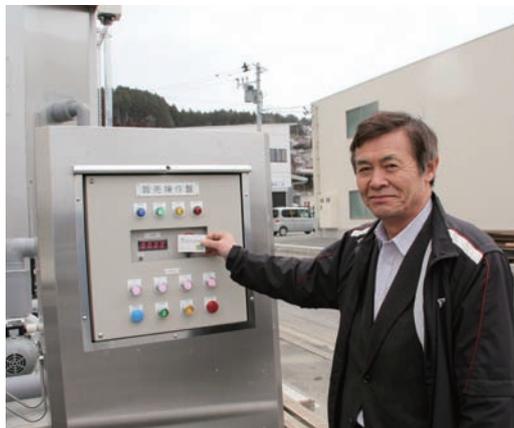
海岸防災林の再生には、年月を要するため、計画全体の立案や苗木の育成は早急に着手しなければなりません。

さらに、このプロジェクトに地元の苗木生産者が参加することで、最初の苗木が植樹されるのは、平成26年の予定。その後も継続的に植樹を展開し、5年後には合計10万本の苗木を植えて松川浦周辺の海岸防災林を再生していく計画です。

【高鮮度水産物供給施設整備事業】

(第1次助成) 宮城県

スラリーアイス製氷機で
安心して水揚げできる
漁港へと強化



宮城県漁業協同組合
志津川支所運営委員会 佐々木憲雄委員長

復興を目指す五つの漁港に
県が製氷・冷凍設備を支援

津波により深刻な被害を受けた宮城県の五つの漁港では、それぞれが懸命に復旧作業を進めています。その中で特に緊急を要するのが水揚げ機能の回復です。

魚市場の鮮魚流通には氷の確保が必須条件。製氷・冷凍・冷蔵設備が整っていないければ、漁船は安心して水揚げができません。そこで宮城県は、本助成を活用し、五つの漁港への設備導入の支援をはじめました。

3月26日、その内の一つ志津川漁港で水揚げ量増大に効果を期待されるスラリーアイス製氷機の導入が完了しました。このスラリーアイス製氷機は、6月に女川漁港、7月に石巻・牡鹿漁港に導入す

定で、最終的には宮城県の五つの漁港に完備する計画です。

スラリーアイスで水産物を
高鮮度、高品質に

スラリーアイスは、いままで市場で使っていたロックアイスとどう違うのでしょうか。

「普通の氷は真水を使っているので、溶けた真水が魚の鮮度を落



スラリーアイスの製造供給設備



海水の塩分を抜き水分だけを粒状の小さな氷に

とす原因となります。スラリーアイスは、海水を使い海中の水の分子を小さな氷の結晶にしているから溶けても海水に戻るのです。鮮度の面でも安心です。さらに、殺菌処理した海水と一緒にタンクに入れてかき混ぜ、シャーベット状にして使います」と話すのは宮城県漁業協同組合志津川支所の佐々木委員長。

魚の鮮度を保つには、冷たい海水が理想ですが、海水だけでは魚の熱で次第に温度が上がってしまう。そこで開発されたのが、粒状の氷と殺菌された海水を混ぜたスラリーアイスです。小さな球形の氷は、普通の氷に比べて魚体を極力傷つけません。さらにシャーベット状なので魚に接する面積が大きく、素早く均等に冷やすことができ、鮮度を長く保持できます。また、塩分濃度が高いと冷たくなり過ぎ、魚が凍って鮮度が落ちる原因になりますが、この装置は塩分濃度を任意に設定でき、魚が凍



水の粒と殺菌した海水を混ぜてシャーベット状にします

らないぎりぎりの冷たさの温度に保つこともできます。

魚市場としての付加価値を
高めて水揚げアップを促進

スラリーアイス製氷機の導入は、

ヤマトホールディングス(株)

木川眞社長が南三陸町を視察



写真左より南三陸町遠藤健治副町長、ヤマトホールディングス(株)木川眞社長、宮城県漁業協同組合志津川支所佐々木憲雄委員長

志津川漁港が宮城県では初の試みです。

「魚市場では鮮度維持が命ですから、スラリーアイスの導入はずっと検討されていたのですが、今回の助成でやっと念願が叶いました。タンク内のスラリーアイスは、配管を通じて構内の4カ所の取り出し口から供給されます。水道水のように、蛇口をひねれば必要な時に必要なだけのスラリーアイスが出てきます。これなら氷を運ぶ面倒がなく、女性でも容易に使用できますね」と佐々木委員長。

スラリーアイス製氷機が導入された志津川漁港には、5月から本格的にはじまった銀ザケ、オキアミとして使われるイサダなどが次々と水揚げされています。

5月9日、木川社長が第1次助成先の一つである南三陸町を視察しました。南三陸町では、仮設市場が昨年10月に、今年5月には仮設ワカメ作業所が完成し、現在は9月を目標に仮設力キ処理場(力キむき場)と塩水取水塔の再建を進めています。視察後は南三陸町の町役場に向かい、遠藤副町長、宮城県漁業協同組合志津川支所の佐々木委員長にお話を伺いました。

「生産、加工、流通と全部がつながる復興を目指していますが、なかなか財源環境が見えてこな



5月に完成した仮設ワカメ作業所

シロザケの漁獲量で宮城県一、カキやワカメの養殖でも名高い南三陸町に一日も早く立ち直っても「いたい」と宮城県は右ページの『高鮮度水産物供給施設整備事業』で南三陸町を支援しています。南三陸町自らも、津波で壊滅的な被害を受けた市場や水産物の加工を行う作業所などを復旧し「漁師や町の人たちに働く術と復興への希望を与えたい」と本助成に申請しました。昨年10月には仮設市場を完成させ初競りも実現。震災から1年強、町は動き始めています。

漁師や地元の人に仕事を
取り戻すために助成を申請

〔水産業基盤施設緊急復興事業〕

(第1次助成) 南三陸町

仮設市場に加え、
待望の仮設ワカメ作業所も完成



宮城県漁業協同組合
菅原茂さん

「この仮設ワカメ作業所ができるまでは、気仙沼の階上（はしかみ）という所まで40分以上かけてわざわざ運び、そこで放射能などの検査をしなければ製品にできませんでした。仮設でもやっぱり近くにあるというのは、凄くありがたいことですね」と話すのは、宮城県漁業協同組合 菅原茂さん。いまはこの作業所で検査、製品

の希望を与えたい」と本助成に申請しました。昨年10月には仮設市場を完成させ初競りも実現。震災から1年強、町は動き始めています。そんな南三陸町で今年5月、新たに仮設ワカメ作業所も完成し、地元復興に弾みをつけています。

仮設ワカメ作業所ができて
効率が格段に良くなった

化までを一気に行った上で、階上にあるワカメ流通センターに出荷入札を行っています。取材にお伺いした時、作業所には2000ケースものワカメが出荷を待っていました。今年にはワカメにとっては最高に良い年とされています。今年、潮の周りも良いですし、例年よりも低水温で、ワカメなど海藻類に良い環境となり、順調に



ワカメの出荷作業



働く喜びに笑顔も広がります

い状況でした。この助成でみんなが前に向かって力強く踏み出せる環境を整えることができました。感謝しています」と遠藤副町長。

佐々木委員長も「仮設市場、作業所、漁船、さらにはずっと欲しかったスラリアアイス製氷機の導入も実現でき、必要としていた設備、機能が順調に整備できています」と話します。

木川社長も「どこよりも早く再開されてスピード感ある、効果のある助成の良いモデルとなつてますね」と視察の感想を話しました。

それでも南三陸町が完全に復興を遂げるには、まだまだ時間がかかります。

「震災で多くのものを失いましたが、豊かな海が残りました。

育っています。また、いつもなら5月に入るとワカメは黄色くなってしまう、もう製品にならないのですが、低水温のお陰でまだ大丈夫なんです」と菅原さんは話します。

仮設力キ処理場(カキむき場)
塩水取水塔も9月に完成予定

他にも復旧を進めている設備に、9月完成予定の仮設力キ処理場(カキむき場)と塩水取水塔があります。

塩水取水塔は、公園だった場所に県の許可を得て井戸を掘り、そこから海水をひいて、地上15mほどのタンクに海水を貯めるように

いまはみんなで協力し合い、共同漁業化で臨まなければなりません。今後この町を担う若い世代の人たちは、それを強く意識・実感できているので、頼もしく思います」と遠藤副町長、佐々木委員長は話しています。



設計しています。施設が完成すると、地下のパイプを通して近隣の水産加工場や仮設力キ処理場(カキむき場)に海水を送れるようになります。

「塩水取水塔が本格的に稼働すれば、随分と便利になりますね」と佐々木委員長は話します。

ワカメやサケなどの水揚げが順調に行われ、以前の活気を取り戻しはじめた南三陸町。仮設力キ処理場(カキむき場)と塩水取水塔の建設を進めながら、さらに漁船の購入も行い、より多くの方が元気に働ける環境を一つひとつ整えています。

〔水産業共同利用施設復旧支援事業〕

(第4次助成) **岩手県**

**岩手県が県内13の魚市場の
漁業関連施設の復旧を支援**



市場機能を復旧させ活気を取り戻しはじめた
久慈市営魚市場

**市場と関連施設を連携し
岩手県の水産業復興を目指す**

岩手県では、本助成を活用して被災した13の魚市場と関連する漁業生産関連施設の復旧を支援しています。水産物高鮮度流通に不可欠な給水および殺菌設備、鮮度保持タンク、荷捌き設備などの整備、復旧の費用を助成。現在、さまざまな施設で着々と復旧事業が進められています。今回は竣工式を開催した久慈市営魚市場と、復旧工事完成記念式典を行った洋野町営八木魚市場の様子を報告します。

久慈市営魚市場

**新施設の力を余すことなく
発揮させ水揚げを増大したい**

津波により壊滅的な打撃を受けた久慈市営魚市場。一刻も早く水



魚市場の第1・第2卸売場の完成を祝い竣工式を開催

揚げできる状態にしようと同業者が一丸となってガレキを片付け、県内13魚市場の中で最も早く、昨年3月30日には競りを再開しました。その後も復旧工事を進め、魚市場第1卸売場を今年4月20日に、第2卸売場を同じく5月21日に完成できました。



大型の定置漁船が2艘重なって
挟まった第2卸売場



昨年3月30日、異例の早さで競りを再開

新しい施設には、震災での教訓が反映され、魚市場第1卸売場の構造は平屋から2階建てに変更し、事務所や休憩室なども2階に設置されています。第2卸売場は、地盤沈下した荷さばき場の段差を解消したほか、電源設備や海水滅菌装置などを2階に設置しています。

5月29日に開かれた竣工式で山内隆文久慈市長は「水産業は久慈市の基幹産業であり、この竣工を機に、さらなる水揚げの増加を図り、当地の水産業の復旧・復興のシンボルとなってほしい」と挨拶しました。

久慈市漁業協同組合の自健一郎

小野町

〔公立小野町地方総合病院整備事業〕

(第5次助成) **公立小野町地方総合病院企業団**

**被災した総合病院を支援し
5市町村の医療環境を整備**



クラックだらけの旧館

角度から地域住民の医療を支えるかけがえのない存在です。そんな公立小野町地方総合病院がこの震災で甚大な被害を受けました。
病院スタッフと役場の職員が力を合わせ患者さんをフォロー

特に旧館は倒壊の危険性が指摘されるほどに。新館と旧館のつなぎ目には10センチほどの段差がで、旧館はクラックだらけ。屋上の給水タンクの配管は外れ、5階から1階まで水びたしの状態になっていました。

「震災時、旧館に1000人くらい入院患者さんがいたのですが、建物危険な状態なのでとにかく新館や外の施設に移れるように、病院と役場の職員が協力し合い対応していきました」と宍戸町長。

「なにも情報が届かず病院のスタッフも不安だったと思うのですが、だれも避難しようとはしませんでした。全員が一つとなって患者さんのケアにあたり、病院の機能維持に頑張ったのです」と藤井文夫企業長。

5市町村には避難区域となっている所も多く、今後被災者が帰還する上でも医療環境の整備は急務です。

また高齢化により長期療養患者の増加も予想されています。本助成により、被害を受けた旧館の建て替えや医療施設が一刻も早く整備されることを、全住民が心待ちにしています。

ここまで
津波が

第4次助成先

**福島県東西しらかわ農業協同組合
地域農業再生基幹施設緊急整備事業**

2012年5月8日、東部共同農業倉庫の新築起工式が行われました。被災した五つの農業倉庫の代わりに、東西地区それぞれに低温管理機能を強化した農業倉庫を新築し、物流の合理化と品質管理の徹底を図ります。



「この農業倉庫を農業基盤の一つに」と挨拶する鈴木昭雄代表理事組合長



東部地区の農業倉庫(943㎡)は9月竣工予定 西部地区の農業倉庫(1,155㎡)は8月着工、来年7月完成予定



津波に破壊され、がらんとしてしまった市場の中



魚市場完成記念式典では大漁旗を掲げ、新たな門出の決意を示しました

**高鮮度管理設備の充実を目指し
管理市場としての信頼を維持**

場所によっては10mを超える大津波に襲われた洋野町。洋野町営八木魚市場も軒先まで冠水し、施設や設備の大半が流失してしまい、

代表理事組合長は「整備されたこの施設を余す所なく活用し、今後の水揚げ増大に努めていきます」と意気込みを話しています。

洋野町営八木魚市場

市場は屋根と柱のみと変わり果ててしまいました。それでも災害に負けまいとする強い気持ちから、津波警報解除からわずか10日後には市場の入札会が開かれています。「水産物や流通の重要拠点であり、洋野町の水産業のシンボルでもある魚市場を一刻も早く復旧しよう」と漁業組合や町民が一体となってガレキ撤去などを開始。着々と復旧工事を推進してきた結

果、今年4月25日に、魚市場復旧工事完成記念式典を開催することができました。

記念式典で洋野町の水上信宏町長は立市場は、全国初の大日本水産会優良衛生水質管理市場に認定された実績を持っています。それにふさわしい衛生管理設備、鮮度管理設備の充実を目指してこれまで復旧を進めて来ました」と挨拶。市場の管理・運営を行う種市南漁業協同組合の原子内辰巳代表理事組合長は「最高の設備を整えていただくことができましたので、これからは魚市場の運営についても県内トップを目指していきます」と話しました。

さらに洋野町営八木魚市場では第3次助成として岩手県が支援する『製氷・貯氷施設回復支援事業』により、鮮度管理能力を高めるための製氷・貯氷設備の導入も進められています。



海水冷却装置と断熱貯水タンク 汲み上げた海水を濾過・冷却・殺菌し、配管を通じて市場内に供給

南相馬市

**【鹿島厚生病院併設介護老人保健施設 厚寿苑の新設事業】
(第5次助成) 福島県厚生農業協同組合連合会**



厚寿苑の駐車場部分に新しい施設を建設

震災で低下した高齢者保健医療、福祉機能の早期回復を

福島県相双地域では、多くの医療関連施設が原発事故による避難区域に該当しており、8施設あった介護老人保健施設(以下老健)が4施設に、14施設あった特別養護老人ホーム(以下特養)は7施設に、16病院も9病院へと減少し、高齢者医療、福祉介護機能が著しく低下しています。

南相馬市にある「鹿島厚生病院併設介護老人保健施設 厚寿苑」は、地震の被害はありましたが幸い原発事故による避難区域外であったため被災後も機能を維持できています。

しかし、避難されて来た約2000人の中には高齢者も多く、厚寿苑のいまの病床数では対応しきれなくなっています。そこで福島県厚生農業協同組合連合会は、

早期に増床を進め、100名の定員へと強化できるように本助成に申請を行いました。

南相馬市の医療を、介護を 私たちの手で守りたい

「海岸付近の老健施設は津波によって倒壊し、いまだ再開の目処が立っていません。厚寿苑は、震災後も南相馬市内で唯一フル稼働できる医療・介護施設として頑張っていますが、震災後は入所希望者が急増しています。現在も200人以上の方が入所できずに困っているのです」と福島県厚生農業協同組合連合会の永瀬隆雄代表理事理事長は話します。

老健、特養施設の不足だけではなく、多くの病院で医師や看護師、介護スタッフなどの人手不足が深刻な問題となり、今後も完全に再開できる所は限られています。厚寿苑の施設強化が一刻も早く進むことは、相双地域全住民の切なる願いです。

「地域の医療を、介護を守っていくために、ここは私たちが頑張らなくてはという思いで臨んでいます。今回の助成では、リハビリ施設も定員20名のところを倍の40名に強化します。また、地域のみなさんが気軽に集まれるコミュニティ的な場所を施設内に設け、そこに施設職員も入り、仮設住宅などで暮らす地域の方のストレスを少しでもケアできるようにと考えています」。

障がい者 給料増額支援

平成24年度レベルアップ助成金の 贈呈式を開催しました

ヤマト福祉財団では、平成24年度より「福祉助成金事業」の見直しを行い、従来の「福祉助成金」に加え、障がい者の給料増額への助成に特化した「障がい者給料増額支援助成金」を新設しました。
この障がい者給料増額支援の中から「レベルアップ助成金」に選ばれた9事業所の贈呈式を、5月23日に東京都中央区にある銀座ブロッサムで開催しました。



レベルアップ助成金が贈呈された9事業所。今後の給料増額の成果が期待されています。

給料増額への支援を強化 助成金事業を一新しました

平成21年度に厚生労働省が発表した障がいのある方の全国平均工賃額は、月額1万2700円でし



「経済的自立力を備えた新しい福祉に変革していきましょう」と話す有富理事長



贈呈式で挨拶するヤマト運輸(株) 山内雅喜社長



ヤマト運輸労働組合 森下明利中央執行委員長

た。このままでは障害年金を加えても、一般の方の月給平均に比べあまりにも差が開いています。いままでもヤマト福祉財団では、さまざまな形で施設、事業所の支援を行ってきましたが、より給料増額に特化した助成を行うべきだと、平成24年度より福祉助成金事業の見直しを図りました。

新たに「障がい者給料増額支援助成金」として「レベルアップ助成金、ステップアップ助成金、スタートアップ助成金」の三つの助成を留意し、最大500万円へと助成額を上げて給料増額が効果的に進むように事業、設備の強化を支援します。

他の施設、事業所の ベンチマークとなる存在へ

5月23日に開催された贈呈式で有富理事長は「パワーアッププログラムのテーマでもありますが、これからは、経済的自立力を備えた新しい福祉に向かって、変わっていくことが最も大切です。その

ために当財団も、障がいのある方が働いて、お給料をたくさんもらえるための支援、この一点に集中して活動を進めています」と挨拶しました。

ヤマト運輸(株)の山内社長も「ビジネスを成功させる上で、私たちもベンチマークを大切にしています。良い成績を上げているところを参考にすることで全体のレベルが上がっていきます。みなさん、ぜひ全国の施設の良いお手本となってください」とエールを送りました。

またヤマト運輸労働組合の森下中央執行委員長は「5月に障がいのある方や施設について学ぶ研修会を開き、財団の活動についても理解を深めました。私たちのカンパが、障がいのある方の給料増額などに役立っていることを実感できれば、組合員もより積極的にみなさんを応援する意識が高まると考えています」と挨拶をしました。

この後、レベルアップ助成先に選ばれた各施設より給料増額を目指す内容が発表されました。

理事長は最後に、今回助成先に選ばれたみなさんへ「この助成で成果を上げ、数年のうちにヤマト福祉財団 小倉昌男賞を受賞する方が現れることを期待しています。そうなれば、他の施設や作業所がみなさんを目標にして次に続いていくことができます。そんな良いつながりが生まれるようにしていきます」と話し、贈呈式を締めくくりました。

新制度は、大きく二つの助成金に分かれています

障がい者給料増額支援助成金

「障がい者給料増額支援助成金」は、三つに分けて支援します ※すべて障がい者の給料増額に効果的な事業、設備に限ります

スタートアップ助成金

(上限100万円・最大10件)

障がい者の所得保障に取り組む地域活動支援センター、無認可小規模作業所、生活介護事業所に限定し、給料増額に結び付く設備の導入を支援

※平均工賃一人当たり月額5,000円以上を支給(昨年度実績)していること
※1法人1施設、1団体1施設の事業所に限る

ステップアップ助成金

(上限100万円・50件程度)

障がい者の給料増額に努力し、全国平均以上の給料支給実績がある施設・事業所に対して、さらにより多くの給料を支払うための事業の開始、設備の導入などを支援

※平均工賃一人当たり月額12,700円以上を支給(昨年度実績)していること

レベルアップ助成金

(上限500万円・最大10件)

給料増額のモデルケースとして、より本格的なしくみを取り入れた事業を立ち上げるために、不足する資金の一部を助成

※平均工賃一人当たり月額2万円以上を支給し、助成対象が400万円以上に対応する事業であること

障がい者福祉助成金

従来の福祉助成金のうち、「障がい者給料増額支援助成金」以外の助成金を「障がい者福祉助成金」として独立させました

障がい者福祉助成金 (上限100万円・総額1,000万円以内)

助成対象は「会議、講演会、研修事業に対する助成」「出版、啓発活動に対する助成」「調査、研究、スポーツ、文化活動に対する助成」

レベルアップ助成金受賞施設をご紹介します

被災企業と手を取り合って 新たな活路を開く

社会福祉法人はらから福祉会 えいむ亘理

入所・通所授産／宮城県亘理郡亘理町
急速凍結機(液体凍結仕様)の購入
平成26年度目標工賃:60,000円

■ えいむ亘理とは…

亘理町は宮城県南部の海沿いに位置し、水産業とイチゴ、リンゴが特産です。えいむ亘理は平成17年、はらから福祉会に八つある施設のうち、6番目の施設として開所されました。

これまでに総菜事業、カップ野菜、豆乳・豆腐事業と約2年間ずつ三つの事業に取り組みましたが、すべて期待通りの売上が得られず撤退しました。事業の見直しを行い、地域に根ざした水産加工を模索していた折り、震災が襲いました。

■ 鮮度は商品の生命線

震災直後、かまぼこなど練り物の製造を5月から開始しました。すると被災した水産加工会社数社から一夜干しと練り物の製造委託の問い合わせが舞い込みました。しかし要望に応えるには質と量を上げる必要があるとの指摘を受け、助成を利用して購入するのが、急速凍結機です。鮮度の維持向上が大きく期待できます。

これまで8施設の中でもっとも



施設長 我妻時彦さん

低い給与でしたが、練り物総菜でなんとか時給50円アップが叶いました。この先は干物を中心に売上げを上げて時給700円を目指すのが法人全体の目標です。障がいのある利用者さんが一人でもしっかりと地域で生きていけるよう、工賃をあげるために努力していきます。



家畜や家禽と触れ合う 福祉就労の場づくりに挑戦

障害福祉サービス事業 作業所月山

継続B型、生活訓練／山形県鶴岡市
エコフード製造のために乾燥用機械購入(菌体飼料製造機)
平成26年度目標工賃:40,878円

■作業所月山とは…

昭和63年に無認可の小規模作業所としてスタートし、平成15年に社会福祉法人の認可を受けました。現在の主力事業はリサイクルです。古紙回収のほか、県内のココ・コーラの営業所から排出されるペットボトルや缶のリサイクルや、魚を下ろしたときに出る中骨を貰ってきて加工し、犬の調教用のビスケットとして製造しています。



理事長 石川一郎さん

■こだわりの鶏と牛で勝負

私たちが応援してくださる鶏卵業者の方から、県内飲食店から食鶏の引き合いが多いと聞き、食鶏の飼育事業を始めたのが、昨年4月のことです。飼育用地として牛舎5棟がついた土地を購入したことから、牛も飼いたいという声が上がりました。

やるからにはこだわって、国産飼料や地場の食品加工から出た副産物を飼料(エコフード)にしたい。品種もサシの入らない赤肉の「短角牛」を夏山冬里方式で育てることにし、差別化を図ることにしました。



育成期間のこともあり、すぐに利益が出るわけではありませんが、500万いただくことの重みを噛みしめて、5〜7年先を見据えてがんばります。



そこでおからやパンの耳、ブドウの絞りカスなどからエコフードを作るのに必要になるのが菌体飼料製造機です。

おいしく育てた青ばた豆で 震災をはねのける

就労継続支援B型 きぼうのあさがお

継続B型／福島県南相馬市
豆腐関連増設機器(燻製・油あげ・がんも製造機)・仕込み味噌製造設備の購入
平成26年度目標工賃:50,000円

■きぼうのあさがおとは…

これまで南相馬市鹿島区で、主に青ばた豆をつかった味噌、豆腐、豆乳を製造するほか、クロネコメール配達事業などを行ってきました。

震災により海側の地区は流されてしまったことからメール便の収益は従来の6割に。畑の半分以上も仮設住宅に変わり、収穫量も大幅に減りましたが、いっぽうで震災支援の意味も込められた、味噌や豆腐の注文が全国から寄せられています。

■自主加工で販路の拡大を

被災した障がい者を数多く受け入れ、定員20名に対し現在の利用者は40名。過密による問題も発生しています。一刻も早く減収を打開し、二つめの施設を開所しなければなりません。

「働くことを生活の柱に」という信念のもと、農業に頼らず丹誠込めて育てた青ばた豆。とてもおいしく仕上がっています。その好評な豆腐販売の拡充を図りたいのですが、生豆腐は製造より6日が賞



所長 森桂子さん



味期限となっており、遠くからのご注文には応えられません。油揚げやがんも等に加工すれば賞味期限は長くなり、販路拡大、給料増額も期待できます。外注経費削減も考慮し、自分たちで加工できるよう設備の導入を決めた次第です。今回のご支援に感謝します。

脱下請けで 最終目標は工賃6万円

社会就労センターいっすんぼうし

継続B型／栃木県小山市
椎茸栽培用ビニールハウスの整備
平成26年度目標工賃:35,796円



理事長 大塚栄さん

■いっすんぼうしとは…

開設は6年前です。社会福祉法人の認可を得る過程で、理念について熟考していた最中に小倉初代理事長の一冊「福祉を変える経営」に出会い、共感。

以来、「働いてお金を得ることを大切にし、働くことに感謝すること」を理念の柱に、最終目標を工賃6万円、そして年金6万円を合わせて12〜13万円の収入を利用者にもたらすことを目標とし追求しています。

■勇気を出して自主事業へ



設立当初の3年間は、事業収入のほとんどがいわゆる下請け仕事でした。しかし、下請けは発注量に波があることや、決められた単価で「価格の自主決定権がない」という大きな欠点があり、忸怩たる思いが募っていました。

平成22年、勇気が必要でしたが脱下請けを目指し、まずはチーズケーキの製造販売と菌床によるキクラゲとシイタケの生産販売に乗り出しました。結果、事業収入は1.5倍に。

そこで、この経験を生かし、シイタケ増産のために助成金を申請しました。培養棟を2棟（シイタケ8千菌床、キクラゲ3千菌床）に拡張する計画です。シイタケについては7月にも出荷を予定しています。

貴重な助成金を有効に生かして、売上600万円を目指します。

ベーカリー増産に向けて キッチンを大きく改修

就労継続支援B型事業所 やまぼうし平山台

継続B型／東京都日野市
やまぼうし平山台カフェの拡張工事・機器整備
平成26年度目標工賃:43,224円



理事長 伊藤勲さん

■やまぼうし平山台とは…

やまぼうし平山台は日野市郊外の山の上に位置します。40年前にベッドタウンとして宅地造成されるも現在は地域の高齢化が進み、小学校も維持できなくなり廃校になりました。

地元は代わりに校舎を再利用した健康市民センターを要望し、正面玄関を改修してサロンを設置することにしました。当時、私どもは駅前にカフェを出店していたのですが、「サロンにはあのようなお店がほしい」と町内会からの要

■目標工賃から計画を逆算

利用者2人工賃1万円台からスタートし、現在は利用者15名、工賃も2.5万円になりましたが、この勢いを保って平成27年度に5万円台へ乗せるには、年商を1500万伸ばし、4100万円の売上が必要です。

そこで練られたプランがベーカリーの増産です。お弁当のほかに作っているパンのほとんどが、午前中には売り切れになっていました。販売網も広がり需要はあるのですが、厨房が狭く設備が貧弱なため、1日1回転しか製造していませんでした。そこで助成制度を活用して、厨房を大幅に改修する計画です。

これを機に必達の使命として、今まで以上に工賃アップに励んでいきます。



よそが持たない 大型加工機で受注を有利に

障害福祉サービス事業所 ぴーぶるファン

継続B型・生活介護・就労移行／福井県越前市
ビニール加工(委託加工)の作業種目を大型化するための機械整備及び運搬具整備
平成26年度目標工賃:55,000円



■ぴーぶるファンとは…
平成17年にNPO法人として産声を上げ、平成19年に社会福祉法人に。現在は、自立支援法に基づく多機能型として、就労移行が7名、就労継続B型が22名、生活介護型が15名の計44名の利用者がいます。理念は「障がいのある人の、人生を輝かせる職場の提供と、人生を楽しむ暮らしを支援する」。開所以来、個別支援計画をベースとする高工賃のモデル事業所として運営し、平均工賃5.4万円を実現しています。



主任 長谷川浩一さん

■付加価値で頭打ちを打破
就労は、委託加工と自主生産の二つに大別でき、委託加工部門は椅子加工やリサイクル事業のほか、中心作業であるビニール加工を受注しています。今回、さらなる工賃の向上を狙って助成に応募し、購入させていただいたのは、ビニール加工に用いられるシーラーと呼ばれる機械です。ビニール加工は加工賃が頭打ちになっており、これを打破する狙いから、よその加工屋さんでも持っていない大型シーラーを導入しました。早速「東日本大震災のがれきを包む袋を作ってくれないか」という依頼を受けました。月100万円〜150万円くらいの作業工賃となる仕事です。この大型加工機を武器に、最低賃金を超える給与を目指してがんばっていきます。



クックチルシステムで 調理の可能性を飛躍させる

多機能型さくらんぼ・おそうざいのさくらんぼ

継続B型・生活介護／愛知県名古屋
厨房機器(クックチルシステム対応機器)の購入
平成26年度目標工賃:50,000円

■新調理法で狙う一石二鳥
しかし、現設備では販売分を、すべて当日に調理しなければならず、忙しくなるにつれ、利用者が主体的に動く工程の確保が困難に…。と同時に、障がいのある方に「早く早く！」と急かすことが多くなっています。

これを克服し、給料の底上げを図る一石二鳥の方法として、クックチルシステム対応の厨房機器の導入を決断しました。

この方式を採用すると、製造作

■多機能型さくらんぼ・おそうざいのさくらんぼとは…
「障がいの者の笑顔と夢ある未来を作ります。働くことは笑顔づくり。お弁当づくりは笑顔づくり」を理念に、お弁当作りはじめて10年が経ちました。

当初は昭和17年築の民家で家庭用コンロ2台から始まり、国の施設整備を活用した建て替えて、200食を製造できる施設が完成。経営コンサルタントの診断も仰ぎつつ、工賃月5万円を目標に邁進してきました。



理事 大野健志さん



業が余裕を持って行えるだけでなく、衛生管理や品質管理の向上が見込めます。なにより保存が最大5日間可能であるため、大量受注への対応が可能となり、販売方法の多様化も視野に入ってきます。

500万円もの大金を援助していただける恵まれた状況を肝に銘じて、頑張っていきます。



※クックチルシステム…加熱調理(中心温度75℃/1分)した食品を急速冷却し(90分以内に中心温度3℃)、喫食時間に合せて再加熱し提供する調理システム。味と栄養を損なわずに長期の保存が可能。仕入れや下準備に余裕ができ、計画的な調理ができる。

生産体制を倍増させて、 トマトケチャップの製造へ

株式会社やきやまふあーむ

継続A型／三重県尾鷲市
トマトハウス及びそれに伴う設備品
平成26年度目標工費：83,915円



最初に手がけたのはシイタケ栽培

■評判トマトで町にも活気を

平成21年12月に障害者就労支援A型事業の指定を受けました。11名から始めて、現在、障がい者スタッフ33名が働いています。

■やきやまふあーむとは…

やきやまファームは、平成16年に世界遺産に登録された熊野古道その最大の難所といわれます八鬼山峠の麓で、借り受けた休耕田を耕しシイタケやトマト、トウガラシなど、季節の野菜づくりをしています。



代表取締役 世古直美さん

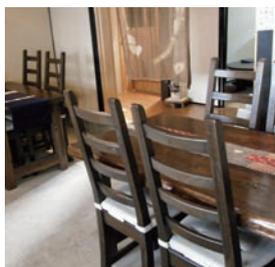
平成21年12月に障害者就労支援A型事業の指定を受けました。11名から始めて、現在、障がい者スタッフ33名が働いています。最初、栽培したトマトが引く手あまた、生産が追いつかない状況に。当初は付加価値の高いトマトケチャップを製造するつもりで栽培したのですが、そこに至らない状況です。農協に相談すると、寒いところで育てると苗がうまく育たず収量が下がるので加温するべきとのアドバイスを受けたことから、助成金を活用して、ハウスと加温設備を導入することに踏み切りました。直売所では地域のお年寄りとも交流が進み、活気を生むのにも一役買っています。みんなが元気になるっていいけるよう、継続は力なりで励んでいきます。



覚悟の新規出店、 月給10万円の夢に向かって

NPO法人かたつむりの会 町家カフェ上屋敷二丁目

継続A型・就労移行／和歌山県田辺市
町家カフェ上屋敷二丁目の出張所となる、元中部公民館を改修工事する費用
平成26年度目標工費：53,500円



改修費は約6400万円ですが、行政の支援は半分。残りは借入れで工面します。そんな折りにこの助成を知り、応募しました。決定の報せを聞いたときは、感謝の気持ちで涙が出ました。ありがとうございました。

私は24年間、特別支援学校の教員をしており、卒業生を送り出す一方で、低賃金の厳しい現状に疑問を抱いています。

平成20年にNPOを発足。翌年にカフェをオープンしました。一般の飲食店として努力を重ねるぶやTV番組でもグルメスポットと紹介されるなど、盛況を博しています。

■町家カフェ上屋敷二丁目とは…



代表理事 河原美和子さん

■試練の先に大きな夢

問を感じていました。そんな出発点を持つことから、事業開始時より月給6〜7万円を保障。現在では最低賃金保障のうえに、労働契約を利用者ときちんと結び、雇用保険も備えています。

しかし、待機者が出るほど利用希望者が増えました。スタッフを含め現在でも30名を超え、店内は満杯で安全面の観点からも、2号店の検討が急務でした。現店舗から10mの至近に公民館として使われていた古い洋館があります。これを借り受けて改修し、ベーカリー工房と厨房および店舗さらにギャラリーを設ける計画を立てました。

全国各地で贈呈式を行いました

◆ヤマト福祉財団が身障者企業組合に助成金
ヤマト福祉財団(本部東京都・有富慶二理事長)は23日、花巻市鉛の新鉛温泉愛隣館で、盛岡市高松2丁目の身障者企業組合「夢1工房」(佐々木勝己所長)に障がい者給料増額支援助成金を贈呈した。



ヤマト運輸若手主管支店の暁(ひがき)浩治支店長が佐々木所長に贈呈

書を手渡した。写真。助成金は100万円、高速プロフェッショナルカラープリンターの購入に活用する。
佐々木所長は「機械を購入し、月5万円の工賃を目標にみんなで頑張りたい。ありがとうございました」と感謝した。
同財団は1993年から、障害者福祉施設の助成事業を展開。設備費や

岩手日報 2012年5月25日



北信越支社

北海道支社



中部支社



関東支社



東京支社



関西支社



中国支社

県内NPO法人に助成金100万円贈る
ヤマト福祉財団
ヤマト運輸などつくる財団法人・ヤマト福祉財団は2日、徳島市国府町のNPO法人・いのちのさとの助成金100万円を贈った。
松茂町中喜来のヤマト運輸徳島主管支店で贈呈式があり、同社の川崎良弘四国支社長が、いのちのさとの石川正晴理事長に目録を手渡した。
いのちのさとは、障害者40人が農業の就労訓練

四国支社



九州支社



石川理事長(右)に助成金を贈る川崎四国支社長(左)と松茂町中喜来

【紙面編集】青木忍

徳島新聞 2012年5月9日

平成24年度障がい者福祉助成金決定一覧

1. 障がい者給料増額支援助成金

●レベルアップ助成金

単位(千円)

地域	事業所名	決定金額
宮城県 亘理郡亘理町	社会福祉法人はらから福祉会いむ亘理	5,000
山形県 鶴岡市	障害福祉サービス事業所月山	5,000
福島県 南相馬市鹿島区	就労継続支援B型「きぼうのあさがお」	5,000
栃木県 小山市	社会就労センターいっすんぼうし	5,000
東京都 日野市	就労継続支援B型事業所やまぼうし	4,227
福井県 越前市	障害福祉サービス事業所びーぐるファン	5,000
愛知県 名古屋市中川区	社会福祉法人さくらんぼの会多機能型さくらんぼ	5,000
三重県 尾鷲市	株式会社やきやまふあむ	5,000
和歌山県 田辺市	NPO法人かたつむりの会町家カフェ上屋敷二丁目	5,000

●ステップアップ助成金

地域	事業所名	決定金額
北海道 有珠郡壮瞥町	特定非営利活動法人さらら壮瞥	1,000
北海道 旭川市	障がい者就労継続支援事業所ゆいまーる	485
北海道 白老郡白老町	フロンティア	1,000
北海道 札幌市豊平区	わーく・ひまわり	826
青森県 むつ市	障害福祉サービス事業所工房「歩み」	600
青森県 八戸市	田面木の家	1,000
岩手県 盛岡市	夢1工房	1,000
宮城県 仙台市泉区	すまいる作業所	1,000
福島県 いわき市	就労支援センター未来工房	1,000
東京都 日野市	工房夢ふうせん	733
東京都 渋谷区	ワークささはた	1,000
東京都 町田市	こころま	1,000
栃木県 宇都宮市	ふくふく亭	340
埼玉県 蕨市	らくらく	1,000
埼玉県 さいたま市桜区	障害者生活ネットワークうらわ	153
千葉県 市川市	第1レンコンの家	1,000
千葉県 木更津市	ふる里学舎木更津	1,000
神奈川県 横須賀市	あすなろ学苑	700
神奈川県 横浜市泉区	地域作業所第2なかだ	1,000
神奈川県 相模原市緑区	藤野地域活動支援センタータンポポ	1,000
山梨県 都留市	就労支援事業所チャレンジ・ドリーム	1,000
新潟県 新潟市中央区	一般社団法人スワン新潟	1,000
新潟県 新潟市秋葉区	ぶどう工房	300
新潟県 十日町市	ワークセンターなごみ	1,000
富山県 中新川郡上市町	であい工房	1,000
石川県 鳳珠郡能登町	自立支援センターみずほ	998
長野県 松本市	夢トライ工房	1,000
岐阜県 岐阜市	長良ひまわり社	800
愛知県 大府市	ワーキングスペースおおぶ	890
愛知県 蒲郡市	日中支援センター八兵衛	1,000
滋賀県 近江八幡市	おうみや	1,000
滋賀県 長浜市	長浜みなみ共同作業所	1,000
京都府 宇治市	みっくすはあつ	420
京都府 京都市中京区	京都市西ノ京障害者授産所青空工房	1,000
大阪府 堺市堺区	とものにしょうりんじ	1,000
兵庫県 神戸市北区	社会福祉法人上野丘さつき会	955
奈良県 奈良市	社会福祉法人こまどり会	1,000
和歌山県 有田郡湯浅町	つくし共同作業所	1,000
島根県 大田市	はとぼっぼ	1,000
島根県 安来市	障害福祉サービス事業所櫻苑	1,000
岡山県 岡山市北区	NPO法人岡山自立支援センターももっ子みつ	1,000
岡山県 井原市	こだま園東原ワーク	1,000
広島県 竹原市	障害福祉サービス事業所若竹	1,000
広島県 尾道市	ワークアップ	1,000
山口県 山口市	多機能型通所施設鳴滝園	1,000
山口県 宇部市	障害福祉サービス事業所「サムラ」	658
山口県 美祢市	あそかの園	1,000

●ステップアップ助成金

単位(千円)

地域	事業所名	決定金額
徳島県 徳島市	就労継続支援事業所いのちのさと	1,000
愛媛県 新居浜市	スマイルラボ	1,000
愛媛県 大洲市	株式会社夢・たまご	1,000
愛媛県 新居浜市	知的障害者通所授産施設すいよう作業所	1,000
高知県 高知市	ライフステージ第2あおぞら	460
福岡県 久留米市	一般社団法人れんこん	1,000
福岡県 福岡市博多区	リンゴの唄	1,000
福岡県 北九州市八幡西区	障害者支援施設北九州フレンド	500
福岡県 福岡市西区	障がい福祉サービス事業所サンハウス	1,000
長崎県 南島原市	ありえ未来ワークセンター	1,000
熊本県 熊本市	就労継続支援A型事業所オレンジワーク	893
大分県 日田市	障がい福祉サービス事業びいたあバン	1,000
大分県 別府市	多機能べつが優ゆう作業所	1,000
宮崎県 日向市	風舎富高	1,000
宮崎県 日南市	障害福祉サービス事業所サン・スマイル	1,000

●スタートアップ助成金

地域	事業所名	決定金額
北海道 北斗市	『はあと』	1,000
宮城県 登米市	登米市社協南方福祉作業所あやめ園	1,000
東京都 多摩市	共同作業所れすと和田	346
千葉県 浦安市	地域活動支援センターとも駅前センターほっぷ	1,000
神奈川県 川崎市麻生区	はぐるま工房	715
神奈川県 横浜市緑区	社会福祉法人和枝福祉会 愛	1,000
新潟県 十日町市	サポートセンター工房なかさと	546
愛知県 半田市	なちゅふいーど	1,000
京都府 舞鶴市	まいづる作業所	1,000
京都府 京丹後市	峰山共同作業所	1,000
京都府 京丹後市	かがやきの社あおぞら	628
兵庫県 姫路市	おばあちゃんの家	1,000

2. 障がい者福祉助成金

●会議・講演会・研修

単位(千円)

地域	事業所名	決定金額
北海道 名寄市	特定非営利活動法人なよろ地方職親会	1,000
宮城県 仙台市青葉区	心のネットワークみやぎ	500
東京都 中央区	社団法人日本自閉症協会	815
東京都 港区	社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会	1,000
千葉県 船橋市	NPO法人発達障害支援ネット「YELL」	600
神奈川県 川崎市多摩区	グループONLY ONE	1,000

●出版・啓発活動

地域	事業所名	決定金額
東京都 昭島市	多摩いきいき就労ネットワーク	1,000
神奈川県 横浜市旭区	工房アリアレ	880
愛知県 知多郡美浜町	特定非営利活動法人チャレンジド	893
京都府 宇治市	知的障がいと自閉症児のための読書活動を進める会	252
愛媛県 松山市	特定非営利活動法人フェロージョブステーション	650
福岡県 北九州市戸畑区	特定非営利活動法人北九州市難聴者・中途失聴者協会	300
大分県 大分市	NPO任意団体湯輪夢	1,000

●調査・研究・文化・スポーツ活動

地域	事業所名	決定金額
宮城県 気仙沼市	オレンジエッグ	500
東京都 杉並区	チャレンジ	500
東京都 港区	特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本	1,000
東京都 渋谷区	特定非営利活動法人ぱれっと	1,000
京都府 京都市伏見区	天才アートミュージアム	180
大阪府 大阪市阿倍野区	ワークスペース街	520

■詳細は財団ホームページをご覧ください

<http://www.yamato-fukushi.jp/>

この街で、
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコメール便配達事業

変わらないといけない。 その想いで始めた。

愛媛県松山市。道後温泉や小説「坊ちゃん」で知られるこの街の中心地に、NPO法人「花いろいろえんぴつ」があります。メール便事業を始めてから、すでに8年目。お互いの個性を大切にしながら、支え合いながら、今日もチームで楽しそつに配達を続けています。



慣れるにしがたがって、
エリアも冊数も増えていった。

そんな強い想いで2005年5月から始めたメール便配達。メイトさんには、当初10数人がトライしましたが、でも、残ったのは5、6人。地

「いろいろえんぴつ」の徳永隆子施設長がメール便事業と出会ったのは、2004年香川県丸亀市で行われたパワーアップセミナー。参加して衝撃を受けたと言います。「取り組んでいるみなさんのお話を聞いて、本当にできるの？すごいなあつと。ソクやりたくなりました」

徳永施設長は帰ってすぐにみんなに提案しますが、総スカンを食ったそうです。スタッフの数が足りない。地図を読めるのか。お客様に迷惑をかけないか。マイナスマ面の意見ばかり。それでも間もなく、「いろいろえんぴつ」はメール便配達を始めます。



仕分け作業は、松山中央支店で他のエリアのメイトさんと一緒にやります。いつもちゃんと挨拶してくれますよ。みんな楽しそつにやっていますとお隣のメイトさんが話してくれました。

図が読めない人、端末操作が難しくて1回で挫折した人、またがんばりすぎて一月でダウンした人もいました。しかし、続けていくうちに、ほとんどん仕事にも慣れ、安定して働ける人が出てきたのです。

最初は10〜15冊だったメール便も50冊を超えるようになり、配達エリアも増えていきました。そこで、自転車での配達を始めます。自転車の担当は亀岡隆広さん。

「彼は自転車で行るのが得意で、とても速いんです。あれば、何十冊でも黙々と配達しますよ」こう語るのは、現在、徳永施設長に替わってメール便を担当する、徳永一行サービス管理責任者。初めの頃は、重いメール便のせいで、2ヶ月に1度ぐらいタイヤがパンク。交換が大変だったそうです。修理をお願いする近所の自転車屋さんとは、すっかり顔

スタート時から続けている亀岡隆広さん(左)。自転車に乗るのが得意。街の人が「重くて大変でしょ」などと、声をかけてくれるそう。それがとても励みになるのだとか。目標は10年!と力強く答えてくれました。徳永一行サービス管理責任者(右)は、施設長の息子さん。施設長のメール便への想いを引き継いで、今日も温かなサポートをしています。「メール便配達は、ヤマトの制服を着て、ヤマトの人間になって働く仕事。責任感がとても養われます」



2人で組んで配達。1冊1冊2人で何度も確認しながら、正確に配達していきます。島本裕而さん(右)は、歩きながら景色を見るのが楽しいのだそうです。メール便配達を始めてから、みだしなみにも気をつけるようになったのだとか。



メール便を丁寧にポストに入れていく紙川多起夫さん。すっかり慣れた仕事ぶりの紙川さんですが、最初はインターホンを押すのが苦手だったそう。今では街の人と話すことも多くなったと言います。

神野修三さんも始めて約1年。端末操作の練習のために、携帯を自分で買ったそうです。続けるうちに筋力がついて、骨折しやすかった杖がいつのまにかなくなっていました。こうしたメンバーが、それぞれの個性に合わせてチームを組んでメール便を配達しています。取材中も、お互いを茶化し合

やってみないとわからない、と始めたメール便配達がすでに8年目。「自分たちでも、難しいことに挑戦していると思います。でも、最初はぜんぜんできなかった人が、いつのまにか責任感を持って働いている。楽しそうに続けているのを見ると、やってよかったと思います」と徳永施設長。

「いろいろなびつ」の名前は、十人十色と形容される人それぞれの個性を表現したもの。いくつもの個性という色がメール便配達に集まって、今日もここにしかないキレイな絵を描いています。

前列向かって左から、徳永一行サービス管理責任者 紙川多起夫さん、島岡隆広さん、島本裕而さん、後列左から、徳永隆子施設長、善家重廣さん、神野修三さん、ヤマト運輸愛媛支店メール便課 重谷優子係長、ヤマト福祉財団 四国支部 紅露隆事務長、ヤマト運輸松山中央支店 嶋田喜宣支店長



メール便を始めて丸7年。いろいろなびつでは1日2、3人で平均100冊前後を配達しています。

700冊のメール便にビックリ!

馴染みに。「実は、個人の持ち物のママチャリのような自転車に配達してたんです。自転車屋さんにも、ちゃんと配達用の自転車にしないとダメだよって言われましたよ」

そこで、新たな自転車を購入。もちろんいつもの自転車屋さんでメンテナンスしてくれるので安心です。島岡さんの自転車配達が一層ラクにできるようになりました。

楽しく仕事を助け合える仲間。

自転車で配達しながら、他のメンバーをサポートする島岡さんは、リ

かし、多いときには700冊を配達したことがあったそうです。「お正月休みが明けた朝、700冊もあってびっくりしました。朝から配達したのに、暗くなっても終わらず、ほんとに大変な思いをしました。地図も暗くて見えなくなっていました」と徳永サービス管理責任者。すべての配達を終了したのは、夕方5時半でした。

そんなさまざまな苦勞を乗り越えて続けて来られたのは、チームの絆の強さが大きかったようです。

ーダー的存在です。最初は誤配もありましたが、他のメイトさんに教える立場になってから、ぐんと責任感が向上。誤配もなくなったそうです。「とても記憶力が良くて、地図を見なくても配達できるんですよ」と徳永サービス管理責任者も感じます。

同じく、スタート当初からのメンバー、紙川多起夫さん。途中、他の仕事の担当になって抜けたことはありましたが、メール便配達はずでに熟練者。いつも正確で冷静。他のメンバーを陰から温かく支えます。島岡さんの良きパートナーです。

島本裕而さんは始めて1年あまり。いつも冗談を言ってみんなを笑わせる、ムードメーカーです。メール便配達をいちばん楽しみにしているメンバーなのだとか。

助け合って、支え合って。

うなど、和気あいあいとして楽しそうですね。

彼らの仕事ぶりを見たヤマト運輸の愛媛主管支店メール便課 重谷優子係長は「ひとつひとつの作業が、とても丁寧。仕事に対する取り組み方が違いますね」助け合って、支え合って、誤配がなくなっていることが良くわかったと話します。

愛媛主管支店松山中央支店 嶋田喜宣支店長は、支店で仕分け作業をしている彼らに、声をかけることを心がけているそう。「毎日、毎日新しい気持ちでやってきています。だから、流し作業がないんですよ。ほんとと真面目です」



いろいろなびつ」の自転車の面倒をみてくださっている今岡サイクルさん。親子でも小さく、いつも温かく見守ってくれています。メンバーがメール便を配達しに行くのを、とても楽しみにしている場所です。



ヴィジェ・エラン 《王妃マリー・アントワネット》 1778年 81×65cm プルトウイコ城蔵
©La Vie de MARIE-ANTOINETTE 2012-13

運命に翻弄された
美しい女

ウィーン・ハプスブルク家から14歳でブルボン王朝に嫁ぎ、その魅力的な容姿と洗練された美意識で、宮廷はおろかヨーロッパ中のファッション・アイコンとなったフランス王妃マリー・アントワネット。

革命の波に翻弄され、国民の愛憎をその一身に集めつつ、37歳という若さで断頭台の露と消えたその数奇な運命ともあいまって、彼女の存在はいまも人々の関心を集めずにはいられません。スウェーデン貴族との道ならぬ恋、浪費家で浅はかな王妃……。そんな形容が常につきまといまいます。

フランス美術の変遷を
目の当たりに

しかし、私たちはまだ彼女のごく一部しか知りません。華やかな宮廷で皆の視線を独占する存在のみならず、時に王妃として毅然にふるまい、妻として憂い、母として慈しみ、そして時には心揺れ動く一人の女性として……。そんな真実のアントワネットの一生を、本展は彼女とゆかりの深い品々で辿ります。

18世紀の絢爛たるフランス文化とアントワネットが愛した「美」に触れてください。本展の美術品取り扱いにヤマトロジスティクス株式会社は協力しています。



作者不詳
《マリー・アントワネットの扇》
18世紀末 紙、真珠母 25.5×45cm
ジャン・ド・ペアルヌ伯爵蔵
©La Vie de MARIE-ANTOINETTE 2012-13



作者不詳
《マリー・アントワネットの風刺画》
1784年 23.2×31.4cm
カルナヴァレ博物館蔵
©La Vie de MARIE-ANTOINETTE 2012-13



マリー・アントワネットのヘアスタイルの再現
(協力: Prella社, atelier caraco canezou)
©La Vie de MARIE-ANTOINETTE 2012-13



Information of the Art

マリー・アントワネット 物語展

開催期間 ▶ 2012年7月7日(土)～9月2日(日)
休館日 ▶ 月曜(※祝日の場合はその直後の平日)、第4火曜日

開催場所 ▶ 名古屋市博物館

- 名古屋駅から
名古屋市地下鉄桜通線「桜山」下車、4番出口から徒歩5分
- 金山総合駅から
名古屋市営バス金山14系統「博物館」下車
- 栄から
名古屋市営バス栄26系統「博物館」下車

開館時間 ▶ 9:30～17:00 ※入館は閉館の30分前まで

観覧料(税込) ▶

	一般	高大生	池田理代子特典付チケット(オンライン販売のみ)
当日	1,300円	900円	1,700円

○中学生以下は無料。

○障害者手帳をお持ちの方および付添人2名様は当日料金の半額。

問い合わせ先 ▶

名古屋市博物館 052-853-2655

展覧会公式HP <http://www.marie-monogatari.com>

主催 ▶ 名古屋市博物館、東映、日本経済新聞社、テレビ愛知、中日新聞社

後援 ▶ 在日フランス大使館

協力 ▶ カルナヴァレ博物館、ナポレオン財団、プルトウイコ城、池田理代子プロダクション、エールフランス航空、ヤマトロジスティクス株式会社

巡回情報 ▶ 2012年 9月15日(土)～11月18日(日) 横浜 そごう美術館

2012年11月29日(木)～2013年1月20日(日) 松山 愛媛県美術館

2013年 2月 8日(金)～4月14日(日) 沖縄 沖縄県立博物館・美術館

2013年 4月27日(土)～6月23日(日) 福岡 福岡県立美術館

2013年 7月 6日(土)～9月 1日(日) 神戸 兵庫県立美術館

ほか巡回予定

公益財団法人ヤマト福祉財団全国支部連絡先 (ヤマト運輸(株)内)

支部	事務長	連絡先
北海道支部	千葉栄一	TEL. 011-891-5040
東北支部	小原 守	TEL. 022-374-8065
東京支部	森内 謙	TEL. 03-5564-3705
関東支部	愛澤啓二	TEL. 045-508-6106
関東支部東地区	平井 忠	TEL. 043-259-7364
北信越支部	酒井 貢	TEL. 025-231-9513
中部支部	後藤淳浩	TEL. 052-725-3633
関西支部	石田久雄	TEL. 06-6682-8570
中国支部	竹下憲雄	TEL. 082-849-1451
四国支部	紅露 隆	TEL. 0877-46-7875
九州支部	北川秀隆	TEL. 092-931-3310
沖縄支部	佐渡山一郎	TEL. 098-840-3605

新事務長に就任しました。

よろしくお願ひいたします。



北海道支部
千葉栄一



中部支部
後藤淳浩



九州支部
北川秀隆



読みやすさを追求した書体

